

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
1 新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践に努めると共に、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。	① 生徒の主体性を引き出し、学力の向上につなげるため、今年度は特に、ICTの有効な活用方法を考え、授業において実践する。	教員が授業でICTを有効に活用していると回答した生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 A 】 後期生徒による授業評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 81 】 % 1年 【 82 】 % 2年 【 82 】 % 3年 【 78 】 %	生徒の肯定的評価は昨年度同時期と比べ13%増の81%となった。1人1台端末を活用した授業づくりに関する校内研修等により、教員の授業改善が進んだためと考えられる。 次年度に向けてより一層の効果的な活用ができるよう学校全体で研究を進めていきたい。
	② 生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習への積極性を高めるための評価を工夫・実践する。	生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 A 】 後期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【 87 】 %	観点別評価2年目を迎え、さまざまな観点から学習評価を行うことが計画的に行われている。昨年度同時期の評価とほぼ同程度の87%となった。 今後も一層の評価材料、評価方法の蓄積を進めていく。
	③ 授業を中心に学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を向上させ、社会の即戦力として活躍できる人材を育成する。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【 81 】 % 1年 【 82 】 % 2年 【 77 】 % 3年 【 85 】 %	肯定的評価の割合は昨年度同時期の評価と同程度であった。 次年度は、学習活動はもとより、学校行事などにも「表現する力・伝える力」を発揮できる場面を多く設定していきたい。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握に努め、授業・補習・課題をセットにした取組を行う。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 140人以上である C 120人以上である D 120人未満である	評価：【 D 】 109人	昨年度に比べ23人の減少である。コロナ禍で学校生活を送ってきた学年であることから、生徒同士で学び合うことができなかつたり、時には授業に参加できなかつたりしたため、受検者数、合格者数が少ない学年となった。 検定試験に向けた生徒への学習意欲を喚起するだけでなく、教科会や互見授業を通してより良い指導方法や指導内容を検討していき、全商検定1級3種目の取得者数の増加を図る。
学校関係者評価委員会の評価		検定試験の意義を生徒に伝えていくことは、1年生の段階から必要なことではないか。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		検定試験に取り組むこと、資格を取ることの意義について、1年生の段階からこれまで以上に丁寧に伝えていく。		

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒が、「相手の目を見て、さわやかな気持ちのこもった」挨拶をしていると評価する割合が、生徒、保護者、教職員のいずれにおいても、 A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：【 B 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 生徒 【92】% 保護者【89】% 教職員【77】%	生徒・保護者・教職員全体でみると肯定的な評価は8割を超える結果であった。生徒、教職員は昨年度の同時期の評価よりも向上している。声を出して挨拶することができる環境への変化が要因と考えられる。 一方で、生徒の自由記述を見ると「爽やかな挨拶をする」「大きな声で元気に挨拶する」ことが必要との意見も多い。 挨拶の質をさらに高められるよう、挨拶の大切さを常に伝え、今後とも生徒会、教職員が連携し、より良い挨拶ができる生徒に育てていく。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 90日以上である D 90日未満である	評価：【 D 】	2学期末時点で、遅刻0の日は45日であり、昨年度同時期に比べ半減している。常習的な遅刻者の改善が見られず、遅刻を繰り返していることがその原因として挙げられる。 保護者との連携をさらに密にし、生徒の規則的な生活リズムや基本的な生活習慣を向上させ、遅刻者減につなげる。 また、次年度は年度当初より「時間厳守」「規則正しい生活習慣を身に付ける」等の重要性について、生徒への啓発活動を行い継続的に指導を実施する。
	③ マナー教育を含めた総合的な商業教育実践の場となっている金商デパートに積極的に取り組む。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：【 B 】 生徒対象アンケートの結果 肯定的評価の割合 全体 【92】% 1年 【97】% 2年 【86】% 3年 【93】%	昨年度とほぼ同程度の結果となり、B評価に留まった。 今年度の金商デパートは、制限なしの形で実施することはできたが、コロナ禍前の形を経験した生徒がいないため、学んだ知識をどのように金商デパートに生かせばよいのかがわかりにくかったことが要因と考えられる。 次年度は、段階を踏んで準備する時間を確保し、生徒が生かすべき知識や技術を自覚して当日を迎えられるようにしたい。
	④ 基礎的な英語を使つての実践的なプロダクティブ・スキル（話す力・書く力）に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に取り組む。	生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上～80%未満である C 40%以上～60%未満である。 D 40%未満である	評価：【 A 】 生徒の自己評価アンケートの結果 全体 【81】% 1年 【83】% 2年 【81】% 3年 【80】%	スモールステップでの言語活動やパフォーマンステストを通して、プロダクティブ・スキル（話す力・書く力）の向上が見られた。 今後は、80%超を維持できるように、活動およびパフォーマンステストの内容と実施時期の検討も考慮していく。
学校関係者評価委員会の評価		単なる物販ではなく、物売る喜び、ホスピタリティを学んでほしい。生徒へ実りあるフィードバック（例えば「声の出し方が良かった」「商品説明が良かった」等）を行うことが次へのモチベーションにつながる。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方針		教員主導で進めていくのではなく、生徒たちの振り返りや次年度への提案を学校全体で共有し、生徒主体の活動としていきたい。		

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
<p>3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。</p>	<p>① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。</p>	<p>就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、</p> <p>A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p>	<p>評価：【 A 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 3年 【97】%</p>	<p>計画通りガイダンスや面接指導を実施することができ、生徒の進路実現につながった。 次年度以降のガイダンスにおいては、仕事をする上で責任感等、人として大切なことについても生徒に伝えていきたい。</p>
	<p>② 進学希望者に対して、ガイダンスや補習を計画的に実施し、早期から志望分野・志望校への進学意識を高める。</p>	<p>進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組む、学力を向上させることができたと答えた生徒が、</p> <p>A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p>	<p>評価：【 C 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 2・3年 【85】% 2年 【79】% 3年 【91】%</p>	<p>2年生の肯定的評価は昨年度同時期と比べ10%増の79%となったものの、D評価に留まっている。今後とも、上位検定、評定アップの必要性について具体的な事例を踏まえ説明し、意欲の喚起を行う必要がある。 3年生については、各教科と連携しながら進学希望者（特に四大・短大）に対する個別指導を今年度以上に充実させていく。</p>
	<p>③ 1年生に対して、進路ガイダンスや総合的な探究の時間を通じて、就職や進学についての理解を深めさせ、進路への見通しを持たせる。</p>	<p>進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、</p> <p>A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である</p>	<p>評価：【 B 】</p> <p>後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 1年 【72】%</p>	<p>1年生に対する進路ガイダンスの機会を充実する必要がある。また、生徒全体に説明する時間を設けるだけでなく、進路等に関する情報を発信したり、冊子等を配付したりすることで、就職や進学への関心を高めていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>求人状況は好調であるが、今後もこの状況を維持していってもらいたい。2年次からのコースを選択する時期が1年次の夏頃となっているが、少し早いのではないかと。進路を明確にした上でコース選択ができるようにしてもらいたい。</p>		
<p>学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>		<p>学校から各企業への求人依頼を今後ともこまめに行っていきたい。また、学年団と進路指導課の更なる連携を図り、進路実現に向け、生徒への情報提供をこれまで以上に進めていきたい。</p>		

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動、安全教育等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価：【 C 】 ベスト4以上 ：【 7 】部	今年度の大会において、女子バレーボールが優勝、ハンドボール・少林寺拳法が準優勝、卓球・男子バレーボール・テニス・ソフトテニスがベスト4以上の成績を取ることができた。ベスト8で敗退した部活動もあるので次年度に期待する。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝が、のべ4競技以上を目指す。	県大会（総文及び新人）で団体優勝をする競技が、延べ、 A 5競技以上である B 4競技以上である C 3競技である D 2競技以下である	評価：【 A 】 団体優勝 延べ6競技	高文連商業部競技大会の総文及び新人において、珠算、電卓、ワープロの競技で団体優勝することができた。 情報処理、簿記については団体優勝は逃したものの、個人では全国大会への出場を果たしている。次年度は団体での優勝も期待したい。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実と活性化を目指す。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：【 B 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【78】% 1年 【80】% 2年 【76】% 3年 【78】%	昨年度とほぼ同程度の結果となり、B評価に留まっているが、今年度はコロナ禍前のように積極的に学校周辺の清掃や雪かきなどに取り組んでいる部活動もある。 次年度は部活動や各種委員会で実施計画を立て今年度以上の取り組みを促したい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【98】% 1年 【99】% 2年 【97】% 3年 【99】%	清掃は概ね良好に実施されている。次年度は教室棟のワックスがけも行い、さらなる美化意識を高めていきたい。 ゴミの分別について、前期には燃やすゴミとペットボトル等の混在が一部認められたが、後期は良好であった。次年度もゴミ分別意識を高めるよう啓発していきたい。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：【 A 】 後期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【100】%	いじめの未然防止の取組は、生徒が安心して学校生活を送るための基盤である。今後とも肯定的評価が100%となるよう、教職員の意識・行動を高めていく。
	⑥ 生徒の安全確保を図るため、実践的な安全教育を推進する。	避難経路と避難場所を理解し、避難訓練に参加している生徒の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：【 C 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【87】% 1年 【83】% 2年 【88】% 3年 【89】%	年度当初に避難経路及び避難場所を各教室に掲示しているが、避難経路について理解していない生徒もいる。 避難訓練の際はクラス全体での避難であるためスムーズに行動できているが、個人ごとの避難であってもスムーズに行動できるよう、防災に対する意識をさらに高めていく。教室だけでなく、廊下等にも避難経路や避難場所を明示する。
学校関係者評価委員会の評価		今まで以上に防災に対する意識を高めることが必要である。避難訓練の他、防災訓練の準備や実施、防災に関する知識を身に付けるためにも防災教育が大切である。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		例年行っている避難訓練だけではなく、学校外であっても、また一人であっても災害の危険から確実に身を守るようにする実践的な防災教育に取り組んでいきたい。		

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 5

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
5 開かれた学校づくりに向けて、教育活動の成果の積極的な発信に取り組む。	学校行事や特色ある教育活動等について、生徒・保護者・地域から求められる情報を、ホームページ、広報誌やPTA活動等を通じて発信する。	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：【 B 】 後期保護者による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【 82 】%	肯定的評価の割合は82%であり、今年度前期と比べると5%減となってしまった。今年度はホームページを充実し、各種学校行事をリアルタイムに掲載することを目指したが、後期においては金商デパート以降の情報発信が不十分であった。 次年度は各分掌やPTAとも協力し合いながらタイムリーな情報発信や会報の発行に努めていきたい。
6 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選と遂行方法の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の時間外勤務時間の短縮に繋げる。	年間の時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員の数が、年間で、 A 0人である B 1～3人である C 4～6人である D 7人以上である	評価：【 B 】 4月～12月における時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員数 【 2 】人	時間外勤務時間80時間超えの主な要因は、部活動指導、金商デパート準備、修学旅行引率などの行事・業務に伴うものである。特に部活動については土日に宿泊を伴う上位大会が県外で行われることが多く、業務過多となっている。 業務の平準化に努め、削減できる業務がないかについても見直しをかけていく。また、部活動休業日には定時退庁するという雰囲気づくりにも努めていく。
学校関係者評価委員会の評価		紙媒体での案内よりもメール配信が有効ではないか。		
学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策		本校ホームページや一斉メールシステムをさらに活用し、タイムリーな情報発信に努めていきたい。		